

# 「スマートシティ いわて」は遠くない

金曜日の夜、寝酒ならぬ寝読みをした。漫画「鉄腕アトム」……懐かしい。

翌朝AM7時。目覚ましが鳴ると同時にカーテンが開き、テレビはニュースを流し始めた。部屋は既に適温になっていて快適な朝の目覚めである。もちろんリビングでは出来たてのコーヒーの香りと程よく焼けたトーストが待っていた。今日は会社が休みなのでドライブに。朝食と着替えを済ませて準備完了。玄関で靴を履くとドアのロックが解除されたので「行ってきます」とセンサーにあいさつ。スピーカーから「お気をつけて」の音声と同時に部屋の家電はニュートラル状態になった。

我が家のAI（人工知能）は私の行動をほとんど吸収し、HEMS（ホームエネルギーマネジメントシステム）装置やIOT（モノのインターネット）家電なども急速に普及し、とにかく日々便利になってくる。

家の前には予約していた自動運転のEV（電気自動車）が待機していた。スマホをかざすとドアが開きシートに着座、虹彩認証で本人性が確認されると「釜石鶴住居復興スタジアムですね」と予約時に登録した行き先が流れた。「出発！」の合図で車は

快調に走り出した。乗り始めの頃は法定速度を守って走る車との感覚のズレにストレスを感じていたが、今では渋滞もなく車中の時間に仮眠や仕事ができることに快適さを覚えている自分がある。行く途中の交番ではロボットポリスが道案内をしている。無人コンビニは当たり前前の光景。

スタジアムに到着。ゲートにスマホをかざして入場、と同時に今日限りのスポーツ観戦アプリがダウンロードされた。スタジアム内は超高速・高精細のWiFiが完備されている。起動したアプリは観客席へとご案内、試合や選手の情報、観戦中に見逃したシーンの再生はもとよりスマホを手に当てるとVRの世界。まるでフィールドに立っているかのような。「あっ危ない」選手と接触したと思ったが痛みはない……。

帰宅途中の牧場では牛に小さな端末を装着し動きをデータとして捕捉。AIを併用し繁殖や肥育、病気の予防に役立てている。酪農・畜産の世界もIT及びIOTによって労働負荷を下げ、生産性を上げ、売り上げを増やして利益を再投資するといった他の産業に見られる流れに乗ってきたようだ。



東日本電信電話株式会社  
岩手支店長

栗田 均

PM7時。帰宅するとダイニングから予め指定していた夕食のいい香りがする。汗をかいて喉も渴いたのでビールを飲みたい心境だが我慢して浴室へ。昨日着た肌着は洗濯を終えてドラムの中で綺麗に畳まれている。湯船には指定した40度のお湯が既に張られていて体を沈めると「ああ快感！」。

ここでタイムアップ。けたたましい目覚まし時計の音。夢だったのか！鉄腕アトムのせいかな……。部屋が蒸し暑い。「えっと、エアコンのリモコンどこだっけ」。

街全体がインターネットで繋がって省電力で動いていたり、自動運転の車が走っていたりという近未来の街。今、IOTやAIの進化で、これまで別々に機能していた基礎インフラや生活インフラ・サービスが、様々な技術の連携によってスマートシティとして動き出しています。環境に配慮しながら、人々の生活の質を高め、継続的な経済発展を目的とした新しい都市。豊かな自然と調和し暮らしやすい「スマートシティいわて」。そんなに遠くない話だと思います。情報通信分野に身を置く者としては、こうした潮流に敏感にかつ熱心に向き合っていきたいと常々思っています。